



共立女子学園報63

2021年4月



次号よりデジタル版になります

学園長・理事長メッセージ

新しい教育の実践

学校法人共立女子学園
学園長・理事長
御手洗 康



新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、この1年間は日常生活や経済活動その他様々な社会的活動が制限され、職場では時差通勤や在宅勤務、リモートワークなど新しい働き方が導入されました。この未曾有の事態は今なお続いており、ワクチンへの期待が高まっていますが、今しばらくは3密を避け人との距離を保つことが求められます。

本学園でも、各校で感染対策を徹底して安心安全の学びの場を確保し、「学びを止めない」「つながりを切らない」ことを大方針に、オンライン授業や分散登校など様々な工夫ときめ細かい対応を行って教

育活動を継続してまいりました。それでも大学生は通学や友人との交流もままならず、中高生は部活動や対外競技、修学旅行など学校内外の活動が大きく制約され、学生・生徒・園児の皆さんは大変な思いをされたことと思いますが、教職員はじめ関係の皆様のご多大なるご努力とご支援に感謝申し上げます。

一般社会ではコロナ対応を機に急速にデジタル化が進んでいますが、本学園でも大学・短期大学では「Kyoritsu 教学DX 推進プラン」を策定し、これを機に学修環境を一層向上させる取組みを展開しています。中学高等学校・第二中学校高等学校においても、教育活動の基盤的なツールとしてICTを活用し、効果的な学びを促進させています。幼稚園においても、園務の改善等にICT機器を導入して教育の質を高めています。コロナ禍の中で本学園のみならずこれからの教育が大きく変化していく兆しが生じていますが、デジタル化では対応できない人と人とが対面することの重要性を改めて痛感しています。これからの教育活動においても教員と学生・生徒・園児同士のつながりを大切にして、一人一人の可能性を最大限に引き出すための新しい教育の実践に取り組んでいきましょう。

学長メッセージ

ニューノーマルを築く 大学・短大の取り組み

共立女子大学・
共立女子短期大学
学長 川久保 清



コロナ禍の1年が経過し、ウィズコロナで社会・教育活動をおこなっていく方向性が見えてきました。2回目の緊急事態宣言発令中、ニューノーマルを築く新年度の取り組みを紹介します。

昨年度は、ビジネス学部の開設に伴い、「主専攻は様々な専攻分野、副専攻はリーダーシップ」を新たに掲げました。後期には、半数以上の授業は対面で行うことができ、11月3日に共立講堂にて2019年度の学位記授与式を行い、マスコミにも取り上げられました。

オンライン授業(オンデマンド型)を行う事で、本

学のICT環境が一気に改善し、その利点として繰り返し学べる事、時間と場所を限定しない事が明らかになりました。一方で、学生側のインターネット環境が十分でないことが課題でした。2021年度からは、教育上、効果があると認めた一部の科目については、「オンデマンド型」のオンライン授業をおこない、学生すべてがパソコンを持つ「Kyoritsu My パソコン」制度を始めます。Society5.0と言われる時代、文理融合のデータサイエンス教育に対応する上でも、大学のICT環境を「Kyoritsu 教学DX 推進プラン」で更に改善していきます。

その一方、対面の授業の重要性も認識するようになりました。本学の利点は、アクセスがいい、手厚い教育支援、リーダーシップ教育です。これらを実現するためにも対面授業を重視します。2021年度からは、100分授業に変わります。対面で主体的に学べる授業設計となります。

今しばらくは感染が収束しない状況です。過去1年の感染予防対策を学び、正しく恐れて、学生の健康第一に学事をおこなっていきます。

中学高等学校 校長メッセージ



中学高等学校
校長 久永 靖史

「できるだけ対面授業を維持します」

昨年度後期も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、ほとんどの行事が中止となりました。12月に延期して実施しようとしていた中学3年と高校2年の修学旅行も新型コロナウイルス感染症の第3波が始まり中止となり、2月に代替として日帰り行事を実施しました。少しでも生徒のみなさんの思い出になってくれればいいと思います。

1月に2回目の緊急事態宣言が発出され、都立高校では分散登校となりましたが、本校では、一斉登校による6時間授業(45分短縮)を行いました。感染状況が悪化した場合のオンラインの活用も視野に入れつつ、今後もできるだけ対面授業を維持する方針です。

さて、1年延期となっているオリンピック・パラリンピックは実施されるのでしょうか。本校では、各学年でパラリンピックを観戦する予定になっていますが、観戦が実現して、中高時代のよき思い出ができることを願っています。

第二中学校高等学校 校長メッセージ



第二中学校高等学校
校長 晴山 誠也

「50年、そしてその先へ」

昨年度が第二高校創立50周年という節目の年にあたり、10月31日に規模を縮小した形ではありましたが、記念式典を八王子講堂にて行うことができました。その後の第3波の状況を考えればぎりぎりのタイミングでしたが、御手洗理事長・宇田事務局長列席のもと、生徒・教職員とともに50年を懐古するよい機会となりました。これまでの歩みはひとえに在校生および卒業生の皆様、保護者の皆様、そして地域の皆様のご支援によるものと思います。改めて心より御礼申し上げます。

先行き不透明な日々には大人は右往左往するばかりですが、それとは対称的に生徒たちは日々逞しく学校生活を送っています。昨秋に完成したICT環境を駆使して委員会や立ち合い演説会を行ったり、2月には秋に中止になった白亜祭をオンラインで復活させたりしました。そのスキルとプレゼン力の成長には目を見張るものがあります。一足早く「進化した二中高」を垣間見たような気がします。

コロナ禍による感染状況は、まだまだ緊張感をもって対応する必要があります。今後も感染防止に努めつつ、キャンパス内に生徒の声の響き渡る本来の学校生活を取り戻してまいりたいと思います。

幼稚園 園長メッセージ



共立大日坂幼稚園
園長 上野 純子

「現在も、そしてこれからも」

幼稚園ではコロナ感染症に伴い、新しい生活様式を続けてまいりました。

生活習慣に関することでは、マスクの着用、丁寧な手洗い、お弁当の内容について等、全てのことに保護者のご理解ご協力があつたからこそ、園児一人ひとりの身につくことができたと感じます。

教育活動については様々な課題について、検討を重ねながら通常の活動に戻していただくことができました。本園が重要に考えている遊びから学んでいくことを維持するために、元来子ども達もっている力を信じ、人や物の環境をどのように組み立てるかを新たな視点で考え進める毎日でした。この結果、年度末近くの2月に表現活動を披露する行事、「ゆうぎ会」を実施することができました。会場は共立講堂を使用することで広さを確保し、演目については新たな表現方法を取り入れたことにより保護者の方から高評価を頂きました。

今後も柔軟に対応しながら生活習慣や教育活動を積み重ね、豊かな幼稚園生活に繋げてまいります。

「ウィズコロナ」「アフターコロナ」に向けた取り組み

大学・短期大学における2021年度以降の新型コロナウイルス対応

本学では引き続き対面での活動を重視した教育を実施しますが、ニューノーマル時代の教育を一層充実させるため、「Kyoritsu 教学DX推進プラン」を策定し、学生のための教育のデジタル化を強化します。

時間と場所を選ばず学ぶことのできるオンデマンド型オンライン授業の導入、全講義室にWEBカメラ設置、ハイフレックス型授業の実施や、LMS、学修ポートフォリオの活用による学修環境の向上を目指します。また、2021年度新入生からは「Kyoritsu Myパソコン」として全員にPC保有を原則としてお願いしています。その他、AIチャットボット「KWU Chat(キューチャット)」による履修登録等の疑問解消対策も導入しました。



中学高等学校における2021年度以降の新型コロナウイルス対応

「今年度は宿泊旅行を実施したい」

今年度は昨年度実施できなかった宿泊旅行をなんとか実施したいと考えています。今のところ、中2、中3、高2は6月初めに、中1は7月後半に予定しています。ただし、中3と高2は期間を2泊3日に短縮し、また中3は実施の可能性を高めるため、旅行先を関西から東京近郊に変更して実施する予定です。コロナ禍の中での宿泊行事は課題も多いのですが、生徒のみなさんにとって、とても大切な学習機会をぜひ実現したいと考えています。

第二中学校高等学校における2021年度以降の新型コロナウイルス対応

「ポストコロナに向けて」

2020年度は、これからの学校教育はどうあるべきかを考える絶好の機会となりました。本校では、臨時休業期間中も「学びを止めない」を合言葉にGoogle classroomをオンライン上の仮想の教室として学習を継続してきました。この経験は、昨秋のICT環境整備を追い風に、授業内で新しい形態として反映されています。双方向仕様のアプリを用いることで、これまで発言を躊躇していた生徒の考えを引き出し、人には様々な考え方があることや、それにより改めて自分を理解することができるという気付きをもたらす効果が見られます。人とのかかわりの中で「共に学びを深める学校」であることこそ私たちが果たすべき未来への課題だと考えます。



共立大日坂幼稚園における2021年度以降の新型コロナウイルス対応

コロナ禍においての新しい生活様式が根付き、子ども達はマスクの扱いが上手になり、手指の消毒も日常の中で普通のこととなりました。

今後も園生活の中で特に気を付けていかななくてはいけないのは、マスクを外す昼食時に飛沫感染をいかに防ぐことができるかということだと思います。「ソーシャルディスタンスを意識した机、椅子の配置」、そして「話をしないこと」を続けていくことが重要です。食事中は感染防止に努める時間であるという意識を持ち、今後も過ごしていきたいと思っています。



家政学部

<被服学科>

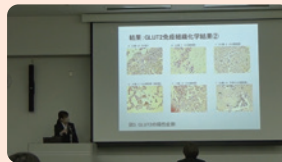
新型コロナウイルスの感染対策を行いながら卒業研究発表会(ファッションショーおよび口頭発表・ポスター発表)を実施しました。中止や完全オンライン化という選択肢もありましたが、ショーの企画・演出・運営や、聴衆の前での口頭発表なども重要な学びの場と考えて様々な感染対策のもと実行しました。会場の聴衆は最小限の学生・教職員のみとした上で、相互の距離を取り、学内外へはオンライン配信としました。共立講堂や講義室で観覧・聴講することを楽しみにされていた保護者様や卒業生には大変申し訳ない措置となりましたが、学生の健康・安全のための苦渋の選択となりました。今年度は従来通りの発表会ができることを祈るばかりです。



(教授 村瀬浩貴)

<食物栄養学科>

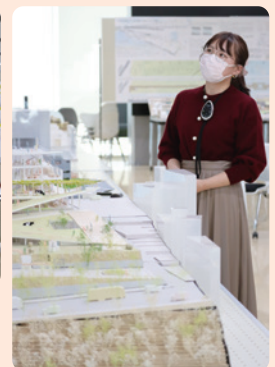
2020年度は、毎年1月に実施している4年次学生の卒業研究発表会が、コロナ禍により開催できませんでした。しかし、学生たちは所属研究室に通い密を避けながら研究を続け、卒業研究を仕上げました。写真に示したのは、ある研究室の卒業演習で学生が試作した薬膳カレーです。糖尿病性血管疾患を抑制するクロロゲン酸が摂取でき、本学のカフェでも販売され好評でした。また、研究室毎の発表会は行われ、その内容は非常にしっかりしたものでした。コロナ禍に関わらず、学生たちは頑張りと、卒業研究を通して大きく成長してくれたと思っています。



(教授 熊谷仁)

<建築・デザイン学科>

1年前はこの先どうなっていくのかまったく予測できないまま、学生第一の授業運営について毎日のように議論していた気がします。今となってみれば、あの議論があったからこそ、他大学よりもいち早く、建築・デザイン学科の根幹を成す対面の演習授業を行い、学生最後の集大成でもある卒業制作・卒業論文発表会も対面形式で無事に終えることが出来ました。まだまだコロナ以前の教育研究体制には遠い状況ではございますが、今後も学生の学ぶ環境を第一に考えていきたいと思っています。



(教授 高橋大輔)

<児童学科>

児童学科では当初の対面での予定を変更して卒論発表会をオンライン形式で行いました。GoogleMeetを使い学生一人ひとりが発表、質疑応答を経験しました。機械の不具合などが心配されましたが、おおむね順調にでき、リモートという特性から下級生が例年より積極的に参加する姿も見られました。学生の変化に対応する力を感じることができました。また、学科附設の子育て広場「はるにれ」では感染症対策に気をつけながら1月まで開室することができました。地域の親子からは「清潔で安全な場所」と感謝の言葉をいただき、コロナ禍での地域貢献の一端を果たせたと考えています。

(教授 小原敏郎)

文芸学部

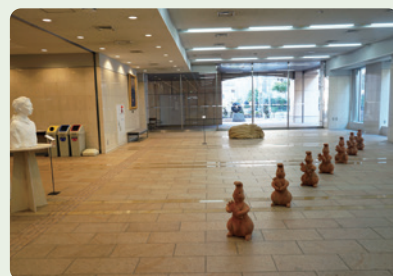
オンラインで卒論報告会開催 英語英米文学コース

2021年2月28日、卒業論文報告会がオンラインで開催されました。例年は四年生が一堂に会し、グループでポスタープレゼンテーションをする形で行って来ました。昨年度は大人数の会合を避けるため、各ゼミ代表が報告し、他の学生は同時双方向で視聴し、質疑応答に参加するという方法を取りました。例年この時期に開催してきた三年生向けの「先輩の話を聞く会」も合同で行いました。発表者は卒論の概要はもちろん、卒論執筆と就活の両立などについても話してくれました。学生同士の対面が限られた年でしたが、四年生にとっては卒論を振り返る、三年生にとっては先輩の体験を聞く、貴重な時間となりました。
(教授 杉村使乃)



卒業制作卒業論文展(2月16日～17日) 造形芸術コース

コロナで始まった2020年度も実技の対面授業は不安の中でスタートしましたが、何事もなく無事に終わることができました。卒業制作の対策として、彫刻はスケールダウン、絵画は数名の学生に冬休みの自宅制作を認めた他は従来通り。冬休みの自宅制作の結果は芳しいものではありませんでした。クラスメイトと肩を並べること、直接の指導や日常のありふれた触れ合いが如何に大事なことなのか改めて感じさせられた一件でした。実技の学生は卒業制作に限らず、大学に来られることを、かつてのようにお喋りできないものの友達と会えることの幸せを感じています。
(教授 須田基揮)



国際学部

「オンライン卒研成果発表会」

2021年1月30日(土)、卒業研究の成果発表会が行われました。例年、教室で実施されてきましたが、今年度は「密」を避けるため、オンライン開催となりました。2、3ゼミで1グループ、全体を12グループに分けて、朝10時にそれぞれMeetで集まりました。資料を画面共有しながら、1人5分ずつ卒論の要旨を発表しました。コロナ禍を乗り越えて書き上げて、オンラインで提出した卒論です。初めての挑戦ばかりでした。先生方の講評のあと、画面上で笑顔のゼミ写真を撮りました！
(教授 浅沼かおり)



「オンライン語学研修推薦プログラム」

新型コロナウイルスの世界的流行は、とくに長期留学や短期語学研修を考えていた学生にとって大きな打撃となりました。国際学部では、少しでも代替となる機会を提供できないかと考え、春休みに実施される、オーストラリアやフィリピンなど時差の少ない国の大学で実施されるオンライン英語研修を推薦プログラムとしました。これには10名弱の学生が参加する予定です。「尺蠖の屈めるは伸びんがため」—こうした機会やGSE・語学科目の授業を活用し、いずれくるポストコロナに向けて力をつけてくれることを期待しています。



(国際学部長 西山暁義)

看護学部

新型コロナウイルス感染症流行下で再開した臨地実習

2020年度前期、全学的なweb授業への移行や東京都の緊急事態宣言発出等により、学生と実習施設の安全を最優先に、4年生の領域別実習の後半クールをオンライン開講としました。一方、この感染症が長期化する可能性が高いことから、実習再開に向けた準備を並行して進めました。

2020年度後期から対面授業を再開するという大学の方針と、感染症流行がやや落ち着きをみせていること、多くの実習施設から実習再開への理解が得られたこと、そして今しか学べないことがあるという思いから、2020年9月21日からの4年生の看護学総合実習、10月5日からの3年生の領域別実習を臨地にて再開しました。実習期間中、発熱などによりPCR検査を受けた学生もいましたが、無事に実習を終えることができました。

本学部では臨地実習再開に向け、「新型コロナウイルス感染症対策における臨地実習に関する方針」を作成するとともに、時間短縮や実習内容の厳選など、実習プログラムに変更を加えました。3、4年生には実習2週間前からの健康行動チェックやアルバイト、旅行、会食等の自粛を求めました。学生の皆さんは、様々な制約がありながらも、2020年度の後期、本当によく自らを律し、緊張感をもって実習に取り組んでいました。また、保護者の皆さまも、辛抱強く私どもを見守り、ご支援くださいました。今回の臨地実習にご協力くださいました多くの方々に、紙面を借りてお礼申し上げます。
(看護学部長 北川公子)

「ウイズコロナでの新たな形式による卒業研究発表会」

2020年11月14日(土)に看護学部4年生による卒業研究発表会を開催しました。

例年、学外関係者や卒業生、在学生を招き、ポスター形式で行っていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染予防を考慮し、口演形式で4年生と教員のみでの参加で実施しました。当日は、2号館の大教室8室に分かれ、間隔をあけて着席、休憩ごとに換気を行うなど感染予防対策を徹底しました。学生の協力もあり、滞りなく実施することができ、1年間取り組んだ研究成果を発表する有意義な時間となりました。

(専任講師 清水信輔)



口演による卒業研究発表の様子

ビジネス学部

コロナ禍によってテレワーク・リモートワークが一気に普及して、コロナ後にも残存することになりそうです。これによって、以前より進行していた新技術(AI等)の経済・社会への浸透は早まりそうです。必要とされる仕事の種類も大きく変化していきます。ビジネス学部は、こうした変化を分析し、昨年度は、1年生向けの「ビジネス入門」の授業、共立アカデミーにおけるビジネス学部教員の講演等でわかりやすく紹介しました。

(ビジネス学部長 植田和男)



2020年秋 ビジネス学部開設記念講座：
AI社会を考える 共立アカデミー

リーダーシップ開発基礎演習ⅠとⅡでは、前期は同時双方向型、後期は対面型の授業を行いました。各クラス約2名のLA(Learning Assistant)のサポートの下、まずオンライン環境で自己理解を深めながらチームで話し合うスキルの獲得を目指しました。後期は鹿島建設㈱が提供する課題に5クラス全35チームが取り組み、予選、本選を経てクライアント賞と特別賞、教員賞の3賞が授与されました。様々な制約の中、チーム活動の振り返りを通じて、各自学びを深め自身の成長を感じたという声が多く寄せられました。
(専任講師 岩城奈津)



生活科学科

「オンラインによる卒業研究・卒業制作発表会」

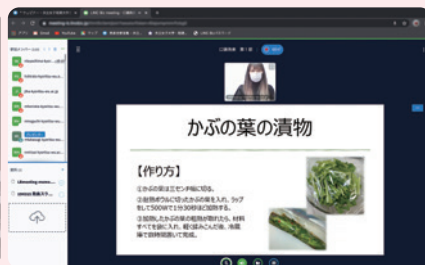
生活科学科では、2年生は「卒業研究・卒業制作(卒研)」(4単位)または「卒業ゼミナール(卒ゼミ)」(2単位)のどちらかを履修することが必修となっています。学生は研究室に所属して、個々に決めたテーマについて1年間をかけて研究・制作を進めます。2020年度は68人が卒研、26人が卒ゼミを履修しました。

新型コロナウイルス感染症対策として、昨年度卒ゼミの発表会(研究室ごとに12月に開催)と卒研の発表会(2月3日開催)はオンラインで実施しました。卒研の発表会には、外部のポスター発表システムを採用し、口頭発表も同システムのウェビナーで実施しました。2度目の緊急事態宣言下、発表する2年生も、それを見る1年生も、在宅で発表会に参加することとなり、自宅のPC環境に不安がある発表者のみが登校する形式となりました。

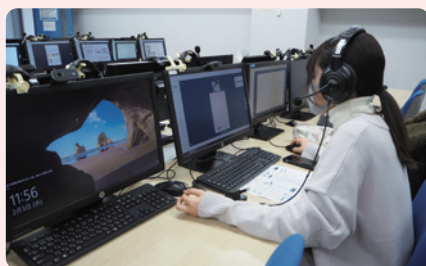
学生、教員、助手、学科全体が一丸となって、学期末という多忙の時期に、未知のシステムの操作方法を学び準備しました。発表会当日は、発表学生のPC環境のトラブルも多少ありましたが、学生たちは冷静に問題解決していて、発表会は彼女たちが2年間の学びで成長した姿を披露する場となりました。(教授 豊島昇)



講義室から口頭発表の様子



口頭発表のスクリーンショット



CALL演習室からのポスター発表



ポスター発表のスクリーンショット

文科

■文科英語コースの取り組み

英語コースでは学内留学生や海外ゲストとの国際交流活動を行っています。2020年度は米国、ガーナ、インド出身のゲストを迎え、フランス、ベナン、中国、韓国の学内留学生とはオンラインで交流しました。Google Drive上にゼミ生が英語で自己紹介、留学生への質問、研究発表などの動画を投稿し、ゼミ生の動画を視聴した留学生がフィードバックの動画を投稿する形で親睦を深めました。12月に留学生が無事来日を果たし、年明けの授業でアクリル板越しにゼミ生と初めて対面できた時には、皆さん感無量でした。



学内留学生とのアクリル板をととした対面交流

■文科心理学コースの取り組み

心理学コースでは、『心理学概論』や『心理学卒業演習』などのゼミナール形式の授業を対面授業として実施しています。対面授業の実施により、図書館や文科読書室など大学の施設を利用する学生も増えてきました。同時双方向型のオンライン授業と対面授業が同じ日に実施された場合には、受講生は情報演習室や文科自習室のパソコンを利用して大学構内でオンライン授業に参加することができます。



ソーシャル・ディスタンスを十分に取った授業風景

大学院

(学位授与日 2021年3月15日)

家政学研究科 論文題目一覧			
	専攻	授与者氏名	論文題目
博士前期課程 (修士)	被服学専攻	平竹 沙弥音	スカートの着装基準と女性の性役割との関連について —大学生(女性)を対象として—
		田中 あゆみ	妊娠後期の働く女性のためのマタニティパンツの検討
	食物学専攻	小澤 希望	糊化デンプンの冷蔵保存中における老化度の評価および添加剤による老化抑制に関する研究
		行方 千晴	多孔質固体食品のテクスチャーの評価に関する研究
	建築・デザイン専攻	小嶋 あき英	都市の居心地の良いオープンスペース
		口 クンジョ	美術館における人の行動と心理に関する研究

文芸学研究科 論文題目一覧			
	専攻	授与者氏名	論文題目
修士課程	文芸学専攻	新井 萌水	明治期漢語オノマトペ研究
		佐々木佑理子	夢に現れる藤壺宮 —秘密の漏洩という点から—
		福原 絵里香	光源氏の子 —「御子三人」をめぐる—
		伊坂 南海	日本におけるオペレッタの受容と多様化について
		小石 真由美	ヴェデキントの描く“光と闇” —「春のめざめ」に込められた思いとは—
		坪谷 里咲	VRを活用した地域学習の教材開発とその効果の検証について
		須賀 香奈子	アニエス・ヴァルダ『5時から7時までのクレオ』分析
		藤本 彩華	裸眼3D視線一致型テレビ会議システムを用いた高・大間における多様な遠隔学習の検証

国際学研究科 論文題目一覧			
	専攻	授与者氏名	論文題目
修士課程	国際学専攻	山崎 愛絵	交渉場面における言語行動の日韓対照研究

看護学研究科 論文題目一覧			
	専攻	授与者氏名	論文題目
修士課程	看護学専攻	嶋田 未来	食道がんにより食道切除術を受けた壮年期患者の退院後自宅療養から職場復帰へのプロセス

総合文化研究所トピックス

総合文化研究所では、研究助成や出版助成に加え、展示や講演などの活動を通して、研究成果を教育へ還元することを行っています。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、予定されていた講演会は中止となりましたが、各研究者はコロナ渦でも研究方法を工夫するなどして、精力的に研究を進めています。2月には「総合文化研究所紀要」第27号が発行されました。昨年度からKWU Repository(共立女子大学・短期大学リポジトリ)はカラー掲載としましたので、研究の詳細と共に鮮明な画像をご覧いただくことが出来るようになります。

(総合文化研究所)
所長 丸田直美



共立女子大学・短期大学
リポジトリより抜粋

国際交流トピックス

国際交流に関する説明会やトークルーム、英会話ルームをオンラインで開催し、海外の大学のオンライン授業の紹介などを行いました。文芸学部C.ホスキンス教授「英語ディスカッション演習_02」では、学生の異文化交流への自信や語学学習への向上心を高める為、ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ日本語授業履修学生とオンラインディスカッションを実施しました。お互いの文化を比較し、参加学生全員が議論を深め、今後の語学学習への意欲を高めました。2021年度も気軽に参加が可能なオンラインの利便性を活かしたプログラムを紹介予定です。

(学生支援課・学生生活支援グループ)

入学式代替イベント

10月に入学式の代替イベントとして『2020新入生Kyoritsu Welcome Weeks』を講堂にて開催しました。コロナウイルス感染予防対策として、学部・学科毎に分かれて実施し、学長、学部・学科担当者からの祝辞や、在学生からの歓迎動画などのプログラムを楽しみました。



このイベント時に、同じ学部・学科の仲間と初めて会った新入生も多く、貴重な時間を過ごすことができました。

(学生支援課・学生生活支援グループ)

卒業記念式典

新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった2019年度卒業式に代わり、11月3日(火・祝)卒業記念式典を挙行了しました。



感染症対策として3回に分けて実施し、オンライン配信含め総勢400名が参加しました。

式典の様子はNHK放送をはじめ多数メディアで取り上げられました。

(大学企画課・教学企画グループ)

共立祭2020

2020年10月17日(土)・18日(日)に「おうちde共立祭!2020」を開催しました。



昨年度はオンラインのみの開催で、前例のない学園祭の開催方法でしたが、企画から運営まで、共立祭運営委員会の学生が力を合わせてイベントの運営に携わり、見事大成功を収めました。

(学生支援課・学生生活支援グループ)

Stand UP! プロジェクト

ボランティア活動・留学生支援・学内イベント運営・地域活動など学校支援のもと行う「Stand UP!プロジェクト」。2020年度はコロナ禍で思うように活動することが難しかったですが、学生主体となり以下の5つのプロジェクトを起案、そして活動をしました。

- ・フードドライブプロジェクト
- ・KWU enjoy PJ with コロナ
- ・ALコーチレベルアッププロジェクト
- ・RUN-K2020
- ・Inclusive kyoritsu プロジェクト

活動の成果報告会は3月4日(木)15:00~16:30に行われました。

2021年度も学生起案のプロジェクトを募集予定です。

(学生支援課・学生生活支援グループ)

共立女子大学・共立女子短期大学 社会連携センター トピックス

<自治体・大学との連携活動>

共立女子大学×福井大学×福井市 新幹線プロモーションプロジェクト

共立女子大学・短期大学と福井大学の学生メンバーによる共同プロジェクトで、2024年北陸新幹線福井駅開業に向けて首都圏の学生目線でPR動画を制作。感染症対策から撮影は一時中断しましたが、本学と福井大学をオンラインで繋ぎワークショップを重ね、福井の魅力に注目しながらアイデアを出し合い、2021年の完成を目指し取り組んでいます。

<企業との連携活動>

共同開発お弁当 累計30万食達成

私鉄系スーパーマーケット8社の共同出資会社である株式会社八社会と本学は、商品開発、学術推進、人材交流及び育成等を目的に、連携協力協定(2019年5月1日)を締結しています。本協定に基づき家政学部食物栄養学科の学生を中心に、健康面に訴求した米飯弁当を共同開発し、同年9月1日より首都圏私鉄系スーパーでの販売を開始しました。

これまでに共同開発した弁当は10ヶ月で20万食、15ヶ月で30万食の累計販売を達しました。今年4月1日より17商品目となる「春のよくばりセット!あさりパエリア&クリームパスタ」の販売が決定しています。

【販売概要】

- ◆販売期間：2021年4月1日(木)~4月30日(金)
- ◆販売商品：春のよくばりセット!あさりパエリア&クリームパスタ 430円(税込)
- ◆販売店舗：(株)八社会に加盟 首都圏私鉄系スーパー(約330店舗)

(社会連携センター長 長崎巖)



「リーダーシップ・キャラバン2020」開催報告

2021年2月24日(水)～26日(金)に開催された「リーダーシップ・キャラバン2020」に、本学より在学生13名(運営5名含む)、学長・副学長を含む教職員24名が参加しました。(全参加者数約150名。参加大学の中では本学が最多)

この企画は、全国で21世紀型のリーダーシップを学ぶ大学・短大生と、その学びを支援する教職員、企業が一同に会し、一つのプロジェクトを通して気づきを繋ぎ・広げることを目的として毎年開催しています。3回目を迎える昨年度は、協力校として本学の施設を提供する予定でしたが、コロナ禍のためオンラインでの開催となりました。

グループ活動では「コロナ禍において、皆さんが最も助きたい人たちがより良くなる、ビジネスプランを提案せよ」という企業からの課題に対し、4名1組で企画・立案・発表・振り返りを行いました。

「リーダーシップ」という切り口で学んでいる他大学の学生との活動や、教職員、企業の方との交流を通じて、自身のリーダーシップスキルの向上と通常の授業とは異なる新たな気づきを得ることができました。

「リーダーシップの共立」の実現に向けて、学生・教職員ともに、この企画の成果を活かしていきます。(教育学術推進課・教育推進グループ)



共立女子大学・共立女子短期大学「公開講座2021」オンライン開催のお知らせ

キャンパス	配信期間	講師	テーマ
研修センター 杉並寮講座	7月7日(水)～ 8月6日(金)	家政学部 教授 深津 佳世子	生活習慣病にならないために ～自分の体質を知ろう！～
	7月7日(水)～ 8月6日(金)	看護学部 教授 山田 緑	あなたの心臓は大丈夫ですか？ ～自分で治す！自分で防ぐ！～
神田一ツ橋 キャンパス講座	6月30日(水)～ 7月29日(木)	家政学部 教授 長崎 巖	千代田城大奥と武家女性の衣生活
	9月15日(水)～ 10月14日(木)	生活科学科 教授 三井 直樹	美しいものには理由がある ～構成学で考える形と色の世界～
八王子 キャンパス講座	10月27日(水)～ 11月26日(金)	ビジネス学部 教授 野沢 誠治	ブランドの視点からマーケティングを学ぶ

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンデマンド型の講座として開講します。
 ※講座の内容は変更する場合があります。
 ※詳細はHP(https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/collaboration/open_lecture/)でご確認ください。



<お問合わせ・資料請求・申込先>

共立アカデミー

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1(共立女子大学・短期大学4号館1階)

TEL 03-3512-9981

FAX 03-3237-2858

E-mail ka-info@kyoritsu-wu.ac.jp

ジャーナリスト池上彰氏を招き「朝日教育会議2020」に参画

2020年11月23日(祝)、ジャーナリストの池上彰氏を招き「朝日教育会議2020」に参画しました(新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、共立講堂・インターネットライブ配信の同時開催)。

本学が「リーダーシップの共立」としてリーダーシップ教育に力を入れる中、「これからの時代のリーダーシップとは」を題材に、第1部では池上彰氏の基調講演、第2部では教員、本学卒業生社長を交えパネルディスカッションを行いました。リーダーシップは組織のトップだけのものではなく、メンバー全員が発揮することが必要な時代になっている中、どのようなリーダーシップが必要か、熱い議論が交わされました。(大学企画課・広報企画グループ)



講演者 池上彰氏 ジャーナリスト

2021年度より「KWU 高大連携プログラム」がスタート

2021年度より大学・短期大学と高等学校を設置する本学園の強みを活かした「KWU 高大連携プログラム」が始まります。

併設の高校3年生は、大学の一部科目を修得することができ、大学・短大に進学後には修得した科目が単位認定されます。

学修意欲の向上、学修分野の理解、十分にマッチングした進学が期待されます。また、進学後には単位認定により創出された時間を、その他の授業や留学、インターンシップ、部活・サークル等に有効活用することで、より豊かな大学生生活を送ることができます。

(大学企画課・教学企画グループ)

古本募金のおしらせ

「book gift」あなたの大切な本が、誰かの希望へつながる。

古本募金とは、本の力を通して、豊かな社会を実現するためのプロジェクトです。

本学においては、卒業生、在学生、教職員、保護者の方々からお送りいただいた本の買取金額が大学への寄付金となり、ラーニング・コモンズ内での学修用文具類や資格・就職活動関連の書籍、雑誌の購入などに活用されています。また寄付いただいた書籍の一部は保育園や小学校、老人ホーム等に届けられ、社会に役立てられます。お申し込みは簡単です。本やDVD・アルバムCDを段ボール箱に詰め、WEBで申込みをするだけで、宅配業者がご自宅まで集荷に伺います。

古本募金WEB <https://www.charibon.jp/partner/kyoritsu-wu/>

(教育学術推進課・学術情報グループ)



2020年度 学位記授与式・卒業式・卒園式について

2021年3月、学園各校において学位記授与式および卒業式・卒園式が執り行われました。新たな門出を迎えた修了生、卒業生、卒園生たちは、大切な思い出を胸に、それぞれの道を歩み始めました。



中学高等学校

オンライン学校説明会

コロナ禍の中、対面形式の学校説明会を開催することが難しいため、5月からWebを使い事前収録した動画説明会で対応してきました。その後は受験生のニーズに合わせ、10月以降はZoomを利用したライブ型の説明会に切り替えました。少しでも学校に親しみをを持って頂くために、広報部以外の教員、在校生、在校生保護者など様々な方をゲストに迎え、その場で視聴者からの質問を受けて、回答をしながら双方向性を意識した内容にシフトしたことで、好評を得ました。また入試問題説明会では例年説明を聞くことがメインとなっていましたが、説明部分を動画配信にし、セットでライブ型の質問会を複数回開きました。動画とライブの良さを活かした取り組みです。さらにWebの小回りが効く良さを活かして、出願締切の前日まで生徒・保護者・教員による「何でも質問相談会」をそれぞれ開催し、多くの受験生やその保護者が参加していただきました。



入試当日や入学手続きの際に、例年は相談コーナーを設けていますが、密を避けるために今年度は中止としました。その代替企画として入学手続き後の土曜日に「Web何でも質問相談会」を実施しました。生活指導部と国際交流部の協力も得て、約80名の入学予定者・保護者から寄せられた学校生活のさまざまな質問に答えることができました。

(広報部 栗子研)

「ウィズコロナ」に向けた 高校2年生ダンスの発表について

例年、高校の体育祭では、ダンスの授業の集大成として、3年生は「荒城の月」を、2年生は「TO MUSIC」を学年全体の集団演技として発表しています。2020年度の体育祭は中止となったため、2年生の「TO MUSIC」は今年度ならではの方法を模索し、本校の体育館でクラスごとに発表会を行い、撮影・編集をして学年全体の作品として映像に残す形式をとりました。サザンオールスターズの「東京VICTORY」の音楽にのせて、「東京2020オリンピック」をテーマにした学年共通の振付に、クラスごとにオリジナルのアレンジを加えて作品として仕上げました。授業においては、時間数が少なかったため、教員によるダンスの見本動画を作成・配信し、生徒各自が復習しやすいようにしました。また、各クラスのダンス係には事前に見本動画で予習をしてきてもらい、授業ではクラスのお手本になり、隊形変化のアレンジも指示出しする等、例年とは違う形で活躍してもらいました。発表本番は観客がいない中、演技直前・直後のマスク着用を徹底し、どのクラスも笑顔で踊りきりました。様々な学校行事が中止となりましたが、一つのダンス作品を創り上げる過程で、クラスの仲間と心の距離を密にし、団結力を高めたようです。



(保健体育科教諭 萩江瞳)

第二中学校高等学校

中学ゴルフ部、 全国5位！

12月17日・18日の二日間、三重県の三重白山ゴルフコースにて行われた「全国中学校ゴルフ選手権特別大会(文部科学大臣旗争奪)」女子団体の部において、本校の中学ゴルフ部が出場し、5位に入賞。錚錚(そうそう)たる出場校の中、素晴らしい成績を残してくれました。



最終日も最終組でのラウンドで回り、その位置でプレイできる喜びをしっかりと噛みしめて楽しく戦ってくれたようです。コロナ禍により厳しい話題ばかりが目立つ中、学校を明るくしてくれるような素晴らしいニュースでした。

特別な、生徒会役員 選挙を実施

冬休みを前に、来年度に向けて生徒会役員選挙が行われました。今年は感染症対策により大講堂での演説会が行えず、その代わりにインターネットによるライブ配信を各クラスで見るという形式で選挙演説が行われました。



立候補者がスタジオ代わりの空き教室で演説を行い、それを撮影し配信、それぞれの教室に設置されたプロジェクターにより黒板に映し出し、生徒たちは視聴しました。

そして今回、もう一つ特別だったのは、生徒会役員選挙史上稀にみる立候補者の多さ。特に中学生はたいへん多く、演説の内容からも、コロナ禍の中で奮闘する先輩役員姿に感ずるところがあったようです。

第50回白亜祭(ハイブリッド)をオンラインで開催！

2月14日、「Sparkling」をテーマに、第50回白亜祭が行われました。

ただし、緊急事態宣言下、従来の形式ではなくオンライン+会場型のハイブリッド形式での開催となりました。当初9月に予定されていた「白亜祭」が中止となってしまい、生徒たちの落胆も大きかったのですが、そこから制限された環境の中で着々と準備を進め、実施にどうにか漕ぎつきました。放課後や休日の活動も大幅に制限された状況にもかかわらず、生徒会役員・白亜祭実行委員会を中心に実によく頑張っていました。



共立大日坂幼稚園

クラスだよりを通して

コロナ禍において、保護者の方々に園内での子ども達の様子を伝える手段の一つとして、「クラスだより」を発行しています。文章と写真をお便りにし、月に1回程度配布しています。

身支度やお弁当の様子などの生活面と、お友達との遊びやクラスでの活動の様子などを日々撮り溜めた写真と共に載せています。ご両親が普段我が子から聞いていた話と、お便りの写真が合致して「このことだったのね。」と提供いただけることがあるのではないかと考えています。保育参観や保護者会が十分に行えない状況の中、子ども達の様子が保護者の方々に届き、少しでも安心していただけるようこれからも工夫を凝らしていきたいと思っております。
(砂塚直子)



おたのしみかい

昨年度6月に予定していた「ファミリーデー」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となり、代替行事として10月17日(土)に「おたのしみかい」を行いました。密を避けるためクラス内でグループ分けし、他学年とも調整をして分散して登園し園舎内を回るようタイムスケジュールを組んで臨みました。



園舎内にゲームや工作コーナー、ヨーヨー釣りコーナーや巨大迷路が現れ、いつもとは違う幼稚園にお子さん達は目をキラキラさせていました。1つのコーナーに行く毎に、先生からカードにスタンプを押してもらい、枠が埋まるととても嬉しそうにお迎えの時間を待つ様子が印象的でした。

2020年度はコロナ禍の折、園行事が例年より少ない中で、保護者の方々のご協力もありこのような楽しい会を行うことができ、お子さん達の笑顔が沢山の1日でした。
(間宮紗矢香)

ゆうぎ会

2月10日に共立講堂で「ゆうぎ会」を致しました。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言中のため、入口での健康チェック、マスクの着用、座席もソーシャルディスタンスの確保など、例年とは異なる形での開催となりました。

年長組は自分で考えたことを舞台の上で一人ずつ話す「ひとりではなす」と、リズム劇「おむすびころりん」を、年中組は「さんぽ」の合奏と、春の訪れを題材にしたリズム劇「もう、はるですよ」を演じました。そして年少組では朝の挨拶から遊びの様子、お弁当、帰りの挨拶までの幼稚園の一日を踊りで表現しました。大きな舞台での発表に緊張もしましたが、堂々と演じることが出来、自信に繋がる貴重な経験となりました。
(高木円花)





共立女子学園フューチャーズ募金

～伝統を受け継ぎ、未来を切り開く～

共立女子学園の奨学制度の充実及び教育研究活動の推進のために応援いただく募金制度です。

2020年9月より新たな募金事業として「共立女子学園フューチャーズ募金」を開始いたしました。多くの方々にご寄付をいただき、厚く御礼申し上げます。本募金により、本学の奨学制度の充実及び教育研究環境の充実と整備を鋭意進めているところでございます。学園の教育研究活動の取り組みについては、学園ウェブサイトやこの学園報にてご案内しております。また、奨学資金への募金は、学生・生徒等への奨学資金の原資とさせていただきます。引き続き皆様からのご支援を賜りたく、ご理解とご協力をお願いいたします。

募金の種類

この寄付は一般の方々にも幅広くお願いする任意のもので、寄付の用途は次の2つです。

奨学資金

- ▶人物・学業成績とも優秀な在學生への支援
- ▶スポーツ・芸術等の分野において成果をあげた在學生への支援
- ▶経済的な理由のため学業の継続が困難となった在學生への支援
- ▶本学を第一志望としながら、経済的な理由のため入学が困難な受験生への支援、本学留学生への支援

教育研究振興資金

- ▶教育・研究環境の整備と充実、教育・研究活動の支援

お申込み方法・払込方法のご案内

① 振込用紙でのお振込み

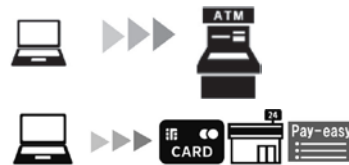
専用の振込取扱票に必要事項をご記入の上、郵便局または銀行窓口でお振込み。募金事務室までご連絡ください。関係書類一式を送付させていただきます。

② ATM及びネットバンキングによるお振込み

学園ホームページより、「ATM・ネットバンキングからのお振込み」画面を選び、入力フォームに必要事項を入力し送信、その後ATMやネットバンキングによりお振込み。

③ クレジットカード・コンビニ・Pay-easyを利用するお申込み

学園ホームページより、「インターネットからのお申込」画面を選び、入力フォームに必要事項を入力し送信。



学校法人に寄付をした場合の税制優遇について

個人が学校法人に対して寄付をした場合には、確定申告を行うことによって、一定額の控除を受けることができます。寄付金控除に係る制度は「所得控除」と「税額控除」の2種類があり、寄付者の所得額や寄付金額によって控除できる金額が異なります。

所得控除と税額控除の比較

所得税率や控除上限額等を勘案し、所得控除と税額控除のどちらか有利な方を選択できます。

所得控除

個人の所得税額の計算において、年間の所得金額から寄付金額-2千円を控除。

※所得税額の計算式

(年間の所得金額-各種控除額(寄付金控除含む))×所得税率=所得税額

税額控除

個人の所得税額から(寄付金額-2千円)×40%を直接控除。

「サポーター証」キーホルダーを寄付者の方全員へ贈呈いたします。個人で10万円以上の寄付者の方へは「プレミアムサポーター証」キーホルダー、学園ラベル特製高級ボトリングティを贈呈いたします。



募金についてのお申し込み・お問い合わせ先
TEL (03) 3237-2816 (募金事務室)
HP: <http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/univ/bokin>
募金事業概要、お申し込み方法等は、下記QRコードによりご覧いただけます。



ここに、2020年9月1日から2021年2月28日までの寄付の応募状況及び、寄付者ご芳名を掲載させていただきます。たくさんの方々からご寄付頂きましたことを、心よりお礼申し上げます。

募金応募状況(2020年9月1日～2021年2月28日受付分)

	奨学資金 (目標額2億円)	教育研究振興資金 (目標額5千万円)	合計 (目標額2.5億円)
累計	60件 2,308,000円	38件 2,038,001円	98件 4,346,001円

法人・団体	個人
株式会社エデュース 百三十万円	(役員) 五十万円 御手洗康 十万円 宇田伊公子 奥山章雄 川久保清 杉江和男
auフィナンシャルサービス株式会社 十万円	(教職員) 十万円 鈴木孝之 晴山誠也 丸山志げ子 望月大介 林友里
株式会社アドレジス 三万円	(卒業生) 十万円 寺田陽子 加藤好子 森礼子 田中矩子 津賀憲子 二万円 堀川千恵 今井仁美 飯島文子 殖栗文子 種佐美佳子 岡野美佳子 岡本宏子 小沼宜子 小野原齋子
日本コンビニエーター・センター株式会社 三万円	(旧教職員) 七万円 金澤大
株式会社アドレジス 三万円	(在學生) 五万円 引間聡 志水恵子 梅沢静子 野間久美子 西湯和子 神山弓子 一山未満 村上靖子 松野久美子 藤田淳子 藤木久美子 平池雅依子 日吉文子 浜口敬子 中村正代 中村京子 長浜和代 永島敦子 手塚テル子 竹村美奈子 高橋悦子 高木享子 菅井通子 新堀由美子 坂本澄子 酒井薫子 小池恵子 河合朋美 粕谷和子
その他 二万円 石井敏子 武者正子 一万円 津津弓子 仲々木淳子 島村真登子 石井真理 脇田慎司	計七十八万円

「共立女子学園報」は次回よりデジタル版になります

本学園ご関係者の皆様にご愛読いただいております「共立女子学園報」はデジタル版に移行致します。

ペーパーレス化による環境への配慮、電子化による利便性向上、といった時代に対応した形にする目的となります。

